

令和6年度 第1回 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月20日（火）午後1時28分から午後3時22分まで
- 2 場 所 横浜にぎわい座小ホール（のげシャール）
- 3 出席者 加世田 恵美子 委員、高島 知佐子 委員、田中 操 委員、廣瀬 哲也 委員
- 4 欠席者 無し
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	1 令和5年度業務評価
委員意見等	<p>1 委員長の選出 委員の互選により、加世田委員を委員長に選出した。</p> <p>2 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>4 審議事項「令和5年度業務評価」</p> <p>(1) 評価関係資料について</p> <p>ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。</p> <p>イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、令和5年度の業務報告及び自己評価についての説明があった。</p> <p>ウ 行政評価について 業務評価表に基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。</p> <p>(2) 指定管理者へのヒアリング、評価・改善点の説明 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価する点、更なる取組を期待する点）の説明を行った。</p>

《評価内容の説明》

「使命1 大衆芸能と市民をつなげる」について

《質疑》

委員 限られた財源のなかで、子ども向けにどのように事業を展開しているか教えてほしい。

指定管理者 年2回のこども寄席の実施や学校プログラム、寄席体験プログラムを実施している。また、子ども向けワークショップとして、寄席囃子の鳴り物体験や落語の所作体験を幅広く展開している。落語以外でも、傘回しなどの太神楽曲芸やマジック体験講座を行っている。事業以外では高校や中学校からの職業体験の受け入れを積極的に行っており、子どもたちににぎわい座の事業を見てもらい、寄席で働く、文化施設で働くのはどういったことか、また落語とはどういったものを理解してもらおう機会を提供することで、施設への理解を深めてもらうアプローチも行っている。

委員 事業視察の中で、若い人たちが落語言葉を理解できないなど、お客様によってはギャップが結構あるように感じた。全ての人に分かり合えるものを希望するというのはとても難しいことだと思うが、寄席に若い人たちを呼び寄せるために、もっと今の話題や言葉を使った内容を要望することはできないのか。

指定管理者 演者にとってにぎわい座の舞台は、自由に芸を披露できる場だと思っているので、要望を伝えたりなどは特にしていない。芸が上達すれば、見ただけで話の内容が伝わることもあると思うが、上手いいかないこともあると思う。一方で、展示やインターネットでの配信の取組を通じて、落語の昔の言葉、それから風俗、習慣を解説していくというのはにぎわい座の使命だと思うし、まだまだ踏み込める余地があると思う。

【評価する点】

- ・ 地元出身の作家である長谷川伸や大佛次郎を取り上げた公演を実施した点。
- ・ 区民優待デーの取組を通じて、にぎわい座を市民に広く周知したこと、また、料金も通常より低廉にして館に足を運びやすくした点。
- ・ 鑑賞型事業の実施回数と展示型事業の実施回数が達成指標よりも上回って実施した点。
- ・ Xを活用して定期的に広報した成果もつながり、票券管理システムの会員数や横浜にぎわい寄席の初来館者の割合が増加した点。

【更なる取組を期待する点】

- ・ ホームページに公開中の「芸能散歩」や「芸人伝」について、見る人でないとホームページを見に行かない可能性があるため、広報で広げていただきたい。

「使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる」について
《質疑》

委員 貸館の予約システムについて、外部からウェブでどのようにアクセスできるのか、教えてほしい。

指定管理者 「いつでも貸館」というクラウド上で管理する予約システムを導入した。館内で利用者から受けた予約を職員がシステムに登録する方法と、ホームページ等に予約システムの入り口を設けて、利用者が直接システムに登録する方法があるが、現時点では職員が予約管理するために利用するのみとなっており、まだ一般公開はしていない。

委員 貸館について、練習室、制作室の令和5年度の稼働率はいくつか。

指定管理者 令和5年度の稼働率は、練習室が54%、制作室が33%となっている。

委員 にぎわい座に、防音のある練習室や制作室を借りられることを知っている方が少ないだろうと感じているので、稼働率を上げるために、もう少し周知を進められたら良いと思う。

【評価する点】

- ・野毛まちなかキャンパスの講座を目標回数を上回って実施している点。

【更なる取組を期待する点】

- ・公演誘致数について、令和5年度実績数が1公演に対し、令和8年度達成指標が10公演となっているため、これからどう増やしていくかが課題である。
- ・貸館の予約システム（いつでも貸館）について、利用者からもアクセスして予約や空室状況の確認ができるように進めていただきたい。

「使命3 大衆芸能を担う人材を育む」について
《質疑》

委員 にぎわい寄席への学生、子ども入場者数が達成指標より少なかったという事で、どういうことが課題ととらえているか教えていただきたい。

指定管理者 コロナの影響があったこと、また、大衆芸能に理解がある学校の先生がどのくらいいるかが課題である。展示など、こちらから発信していくもので目に触れてもらうもので興味を持ってもらう方向を模索していくことが必要だと思う。また、コロナの状況が落ち着いてくれば、団体利用も増えてくると見込んでいる。

【評価する点】

- ・若手演者育成事業の実施回数が令和5年度達成指標を上回っている点。
- ・若手演者育成事業として、継続的に登竜門シリーズなどの企画を実施し、にぎわい座で育成事業の場が存在すると外部からも認知されてきている点。
- ・若手演者育成公演の平均入場者数が令和5年度達成指標を上回っている点。

【更なる取組を期待する点】

- ・にぎわい寄席への学生、子ども入場者数の増加に向けて、学校の先生方の関心を高める取組が必要である。生徒を集めることを考えるよりも先に、先生方をターゲットにした、先生方を集める取組も考えられる。

「使命4 地域のにぎわいを創出する」について

《質疑》

委員 地域との関係において、すごく丁寧に関係を築いているということで、地域のイベントの一環としてという部分もあると思うが、逆に、地域側からにぎわい座のイベントを発信したいといった動きにまで発展すると良い。もしそういう動きが既にあれば教えていただきたい。

指定管理者 野毛地区が大いに盛り上がり2日間にわたり繰り広げられる野毛大道芸では、のげシャレー（小ホール）を会場として貸している。にぎわい座やのげシャレーの名称が野毛大道芸のポスター、チラシ、ホームページなどにも掲載され、イベントの中で大変幅広く広報していただいている。

また、他の取り組みとして、開館以来、毎月、にぎわい座の自主公演のポスターを40部作成し、野毛の飲食店で貼っていただいている。貼ってくれたお礼としてにぎわい座の事業を知ってもらうため、招待券を2枚お渡しして、にぎわい座と野毛地区の繋がりも大切にしている。

【評価する点】

- ・野毛大道芸イベントとの連携を継続して実施されている点。
- ・野毛地区街づくり会との共催事業を4回実施されている点。
- ・赤レンガ倉庫1号館、大佛次郎記念館との連携事業を実施している点。

【更なる取組を期待する点】

- ・自主事業公演への団体誘致数について、令和5年度実績が令和4年度実績よりも大幅に増えているが、もう少しで指標達成という結果だった。令和8年度指標の達成に向けて、引き続き頑張っていただきたい。

「使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる」について

《質疑》

委員 外国人向けバックステージツアーの実施内容や、参加者からの感想はどうだったのか。

指定管理者 横浜市観光協会が企画する野毛地区の街歩きツアーの中に、にぎ

わい座のバックステージツアーを組み入れていただいた。主に芸能ホールの客席でにぎわい座の概要説明や落語やどん帳、舞台袖まで行っていただいて、めくりなどの寄席文字、寄席の特徴的なものを見ていただいた。出囃子も紹介し、2階のフォトスポットで撮影いただいた。参加者からは、「落語をもっと知りたくなった。」、「野毛を回りに行きたい。」といった声や、「街歩きツアーで印象的だったことは何ですか」というアンケート項目に対して、「劇場が非常に興味深かった、にぎわい座が印象に残った。」という声をいただいた。

【評価する点】

- ・にぎわい寄席の障害者料金での利用者数が大幅に増加した点。
- ・外国人向けのバックステージツアーを実施し、外国人に日本の大衆芸能の魅力を知ってもらう機会を提供するとともに、横浜市観光協会との連携が斬新なアイデアによる取組だった点。
- ・支援学校からのお問合せに対してとても丁寧に対応している点。こういう現場での対応を積み重ねていくと、にぎわい座だったらバリアフリー対応も大丈夫だよという横のロコミとして広がると思うので、ぜひ引き続き頑張っていたきたい。

【更なる取組を期待する点】

- ・外国人向けに太神楽曲芸など言葉なしで伝えられるワークショップなどを企画するなど検討していただきたい。

「使命6 持続可能性を高める施設運営を行う」について

《質疑》

委員 機械式駐車場の故障が頻発していることについて、ビル管理の問題であるのか。具体的に困ることはないのか。

指定管理者 にぎわい座があるビルは複合ビルになっているため、問題となっている機械式駐車場もビル全体の管理の中の一つとなっている。大がかりな機械設備になるので、修繕費用は相当多額の費用がかかる。

また、実際に機械が故障して停止し、にぎわい座の公演に出演した演者の車が出せないトラブルが発生した。修理のサービスマンが到着するまで3～4時間かかるということで、当日は演者にタクシー代をお出しして、お帰りいただいた。後日、演者さんに車を取りに来ていただかないといけないため、心苦しい対応になった。

横浜市 補足として、機械式駐車場の不具合については、指定管理者から説明があったように、ビルの管理組合全体でも懸念事項として認識されており、修繕費用も大きい金額になるので、住民、店舗、にぎわい座、横浜市と、管理組合全体で検討を進めている。

委員 設備の修繕について、どのタイミングで実施するのか、費用負担をどうす

るか、市と協議していくと思うが、修繕計画はあるのか等、現在の修繕対応状況を教えていただきたい。

横浜市 指定管理者と横浜市の間の協定で、修繕金額が60万円以上のものは横浜市が負担し、修繕を行う扱いになっている。指定管理者が日々の状態を確認し、何か不具合があった際、60万円未満の修繕であれば施設が修繕をしている。60万円以上になる修繕は施設からの報告を踏まえて横浜市が修繕している。ただし、現状として、各施設が老朽化している中で、市の予算も限られており、その中で優先順位をつけて各施設の修繕をするというのが現状となっている。

「総括」について

《質疑》

委員 公立の施設で大衆芸能を扱うというところをどう考えるのか、落語以外の大衆芸能をどれぐらい取り上げていくのか。

指定管理者 にぎわい座は大衆芸能を専門にする公共施設となっているが、落語以外の大衆芸能を幅広く取り扱っていないのが現状。開館以来、落語以外のものもたくさん取り扱ってきたが、なかなか集客と結びつかないこともある。ただ、近年、講談や浪曲の公演で集客が見込まれるようになってきたので、のげシャレーで若手の公演を中心として続けている。

委員 落語作品も、後継者を育成すると考えると、お客さんが受け入れてくれる作品だけではなく、古典や新作を演目に入れてレパートリーを広げることで後世に残していくことが重要であると考えているが、そのあたりのバランスをどう考えて運営しているのかうかがいたい。

指定管理者 落語については、古典芸能、創作の芸能、幅広くある中で、創作の芸能では、鉄道や野球をテーマにした公演を実施し、そこで新作をかける機会がある。桂歌丸前館長が、演じられなくなり埋もれた演目を復活させる公演を行っていたので、引き継いで、名作落語のタベという企画を行っている。今後も公演内容を工夫しながら行っていきたい。

委員 若手育成事業について事業の収支バランスにもよるが、少しずつでも段階的に取り組んでいることがあれば、教えていただきたい。

指定管理者 落語を中心として、少しずつ出演メンバーを替えていき、若手演者育成公演（登竜門シリーズなど）をのげシャレーで実施している。この公演で修行した演者は卒業して、芸能ホールで公演することもある。のげシャレーで研鑽を積んで、芸能ホールで公演を開くという若手演者の育成システムとなっている。このシステムに呼ばれて勉強していきたいといった機運が落語中心に、講談や浪曲、漫才でも定着してきており、にぎわい座としては公演を続けていくというのが大事だと考えている。

また、実際にお客さんに喜んでいただける人材が育ち、認められる演者さんをもっともっと増やしていく取組が大事だと考えている。
昨年から今年度にかけてお客様に認められる演者が増えており、その姿に続きたいと、後進の演者さんの目標になっている。

【評価する点】

- ・貸館利用率、総来場者数が大変良かった点。
- ・丁寧でバランスのよい運営がなされている点。

【更なる取組を期待する点】

- ・横浜市と予算や設備の状況を共有し、設備も20年以上経っているので、大きな事態にならないように、引き続き、メンテナンスに留意いただきたい。
- ・一度にぎわい座に行きたいと思われる広告を行い、来場者数も多くなるように努力していただきたい。

4 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。